

## 各期の活動

ぬ。村人は皆健康であり度い。

今現実の日本を見る。如何に理想から遠いことか。食料は米国からの補給でやっと支えている。着るものも乏しい。旋野原に次第に仮小屋が建ててきたけれども新しい夫と妻とを容れる家がない。又絶え間なく闘争が続けられる。次に世界を見渡す。日本程ではなくとも、理想に近いとは云い得ない。

如何にしてこの苦しい日本の現状を改良し得るであろうか。我々は理智（Wisdom）を動員し、合理的（Rational）な思索と実行をして有力ならしむるより他にないと思う。合理は科学である。科学に依つてのみ日本は救われる。

世界における大小の社会も亦合理即ち科学に依つてのみ発展進歩する。即ち、人間の本質の哲学を究め、人間達が相寄って作る社会の諸々の理論を研究する。永い過去に亘って人類が為し来た歴史と文芸を究めて将来の幸福に資する。自然の現象の規律を求め、進んでその規律を医、農、工に應用して生活を豊かにする。誠に科学は人類社会の福祉の基礎である。それは研究室のみのものでなく、行政にも、産業にも生活にも反映浸透させなければならない。

誠に科学は有力である。然しこの力を抑取と破壊に使つてはならぬ。平和と繁栄に役立てねばならぬ。

日本の科学者は科学の力を信じ、その善用を企圖して日本学術会議を作り、互に選んだ会員をこの会に送った。選ばれた210人は、科学こそ其に日本を再建し世界人類の福祉に貢献すると固く信じ、世界の学界と提携して、今日のこの日から活発に活動しようと思う。

終りに日本学術会議の生みの母である学術体制刷新委員会、殊に兼重委員長に厚く感謝する。又米岡科学学士院より派遣せられた一昨年のアダムス博士ら一行、昨年のブロンク博士ら一行は、日本の科学者を激励し、よい助言を与えた。また占領軍司令部の経済科学局のケリー博士は終始変らぬ援助と奨励を日本の科学者に与え、いずれもこの学術会議の誕生に大いに寄与した。厚く謝意を表すると共に今後益々助力を得度い。

本日発会式に当り、日本の科学者は勿論のこと、国民全体の深い協力の下に日本学術会議のすこやかなる発展を期し、210名の会員に代つて、茲にこの所信を述べた。

昭和24年1月21日

日本学術会議会長 亀山 直人

## 日本学術会議発会式における総理大臣祝辞

本日、日本学術会議の発会式に当りまして、第1回日本学術会議会員として当選の榮譽を担われた皆様の前に、お祝の言葉を申し述べる機会を得ましたこと

は、私の深く喜びとするところであります。

思うに、天然資源に恵まれぬ我が国が、戦争による荒廃から産業を建て直し、国民生活の安定と向上をはかることは現在の我々の当面するもっとも大きな、そしてもっとも困難な問題であります。これが根本的解決は科学技術の振興に俟たなければならないのであります。又戦争を永遠に抛棄し平和的文化国家として、新しい日本を建設することを決意した我々も、単に自国の平和と自国民の幸福をはかるのみならず、文化の発達なく科学の振興を通じて、世界の平和と人類社会の福祉に貢献しようとする大きな理想を持たなければならない。まことに科学の振興こそ新日本再建の基礎であると共にその目標であると思うのであります。

日本学術会議は、科学振興のこのような国家的要請に依つて、科学振興の具体的方策を樹立し、その実現を図るため、国家の重要な機関として設立されたものでありまして、その使命はまことに高く、その任務はまことに重いと云わなければならない。しかしながら本会議の組織運営の構想は、全国科学者の総意に基いたものであり、全国の科学者からその興出を担って選出された210名の会員が智能を結集して問題の解決に当らんとするもので、本会議の活動には多大の期待が寄せられるのであります。又日本学術会議は勿論国の機関ではありますが、その使命達成のためには、時々の政治的便宜のための制肘を受けることのないよう、高度の自主性が与えられておるのであります。ここに本会議の重要な特色があるのであります。が、このことはそれだけ会員の皆様の責任を重くする事と思うのであります。

どうか皆様にはその任務の重大なることを認識され、本会議の崇高な使命達成に格段の御尽力あらんことを切にお願いする次第であります。

なおこの機会に学術体制刷新の問題に関して連合軍総司令部より与えられた多大の御援助に深甚の感謝の意を表したいと存じます。終戦後我が国においてこの問題が提起されて以来総司令部経済科学局当局におかれては、終始一貫温い同情と理解とを惜まねず、特に再度にわたり、学術顧問を招聘せられるなど、貴重な助言と示唆を与えられたのでありまして、その御厚意と御支援とをここに政府を代表致しまして厚く御礼申し上げる次第であります。

最後に、私は学術体制刷新委員会が設置されてから今日に至るまで本会議の創設に多大の御尽力をいただいた兼重委員長を始め学術体制刷新委員会関係各位の御勞苦に衷心敬意と感謝を表すると共に、日本学術会議の洋々たる前途を心から御祝い申し上げ、私の祝辞といたします。

## 日本学術会議発会式における参議院議長祝辞

祝 辞

新しく成立いたしました日本学術会議の発会式を挙行せられるにあたりまして、一言所信を申述べますことは、私の欣幸とするところであります。

思うに、文化的民主日本を再建する上におきまして、経済の復興が先決の要件であることはもとよりであります。同時に、広く文化一般の興隆に寄与すべき強い基盤を築くことが、また極めて緊切な事柄であることは、あらためて申すまでもないことと存じます。

乃ち賢明なる全国の科学者諸君におかれましては、他の行政各部機構の民主的改革と平行いたしまして、旧学術体制の吟味検討につとに意を注がれ、諸種の難関を打開しつつ、撓まず努力せられました結果、その総意を反映した学術体制刷新委員会の成案となり、さらに第二回国会においてこれを立法化し、日本学術会議法が制定されるに至ったことは、邦家のためまことに慶賀に堪えないところであります。この法律のもとで、旧日本学術会議会員の選挙が、全日本の科学者諸君の間に行われ、各位がそれによって当選の榮譽を荷われましたことに對し、衷心よろこびを申し上げます。

敗戦以来荒廃したわが国土の上に、健全な文化国家を再興すると共に、世界の平和に貢献致しますためには、科学の力が最も有効に應用されなければなりません。全国科学者の代表機関である日本学術会議の、今後における運営がよろしきを得るや否やは、直ちにかかってわが再建文化国家の盛衰にはもちろん、人類一般の福祉にも影響があるものと存するのであります。各位のご責務は、まことに重くかつ大であります。

国会といたしましても、各位のご活動に對し、できるだけ協力を致すことと存じます。何卒、各位におかれまして、切にご自愛ご自重の上、崇高なるこれら使命の達成に精進せられ、十分に日本科学者の真価を内外に発揚せられますよう、心から念願しまして祝辭と致します。

昭和24年1月21日

参議院議長 松平 恒雄

1949年1月21日日本学術会議発会式における  
H・C・ケリー博士挨拶

議長、承田総理大臣代理、内閣々員諸氏、日本学術会議会長及び列席の各位。

本日解散することになっております学術体制刷新委員会は、全国の科学者を代表し、又現下の新しい経済状態に関連した技術的問題を解決するという科学者の

## 第1期資料

責務を果し得る能力をもった全国的学術体制案を政府に提案する責任を担っていたのであります。

日本学術会議及び科学技術行政協議会の成立により、刷新委員会は其の責務を完了したわけでありませう。この二つの機関の両方とも、日本人独自の立場から作られたもので、学術団体の歴史の中でも全く新しいものであります。刷新委員会は、日本の技術的問題と取組むために必要な機関の案を作ったということばかりでなく、非常に困難な事態の下にあってよく協力の実を挙げたことに對しても賞讃するべきものであり、又本日誕生した日本学術会議に對し非常によい範例を示しているのであります。

日本学術会議の会員は、この全国の科学者の総意による地位に就くに當つて、日本学術会議法に述べられている任務を果すことを承認したわけでありませう。日本学術会議法に述べたところによれば、日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与するものであります。これは大胆な言葉でありまして、この負荷の任務を遂行するには真に有能な人を要するのであります。これらの責任を果すためには、学術会議会員の一人一人が先ず最初に、自分の専門的な利益及び地域的の垣を乗り越えねばなりません。

日本は欧州のそれに比すべき産業革命の経験を持ちませんが、然し、基礎方面、特に数学、理論化学、理論物理学等における発展にはめざましいものがあります。日本の理論科学者は、今なお一流であり、立派な仕事をしておられ、それによって現下の窮乏打開のための基礎をつくるに大いに寄与しておられるのであります。科学技術が、日本の経済的復興に肝要のものであることは疑いの余地がありません。新学術会議は、日本の現状に必然的につながる技術問題を認識しなければなりません。これらの問題の解決の道は、科学者、産業界並びに政府の間の協力的精神をますます強固にすることによってのみ開かれるのであります。この産業への応用は、経済的に必要であるのみならず、又基礎科学者の権威を更に高め、その飽えざる進歩のために必要な状態をつくらせて行くことを助けるのであります。

学術会議法についてみますと、日本学術会議の実行力と影響力は会議それ自身の権威によってのみ決定されるのであります。この権威による影響力というものは、会議がなすところの陰明な、真摯な、そしてよく審議せられた選定答申を通じてのみもたらされ得るのであります。皆さん、日本学術会議第1回会員各位は、この権威をうちたてていくという責任をもた、